

俺たちの新入社員OJT

- 「一人前」のAWS内製開発メンバー育成 -

KDDI株式会社 情報システム本部

松本 健太郎、笹谷 晃斗

2026/6/22

本セッションでお話すること

- ✓ 我々のチームはWebやAPIなどの複数システムのインフラ担当（運用改善、バージョンアップなど）をしています。
- ✓ 2025/9に、ありがたいことに新入社員がチームにジョインしたので、「モチベを維持しつつ、技術的にも成長してもらえるにはどうすればよいか？」を考えてタスクをアサインし、実際に成果を出してもらうことができました。
- ✓ 新入社員や若手がメンバーに来た時に、どんな感じで育成していけばよいか？を試行錯誤した話になります。

本セッションでお話すること

- 発表者紹介
- インフラ内製開発チームの役割
- OJTのゴール
- OJTタスクの選定
- OJTの実例
 - 勉強用AWS環境コスト削減
 - Squid脆弱性対応
 - 障害対応訓練
- OJTを通じた成長と今後の展望
- まとめ

発表者紹介

社会人約30年

- 氏名： 松本 健太郎
- 所属： KDDI株式会社
- 仕事：
 - ・ チームリード
 - ・ 運用ノウハウの共有・横展開（記事化など）



新入社員

- 氏名： 笹谷 晃斗
- 所属： KDDI株式会社
- 仕事：
 - ・ 2025年度入社
 - ・ AWSシステムの運用効率化



インフラ内製開発チームの役割

既存システムの運用/改善を通じた知見を新規システム設計/構築に活用

既存システム

A

B

C

D

AWSインフラ運用/改善

新規/移行システム

E

F

クラウド移行の設計/構築

障害対応

コスト
削減

バージョンアップ

対向システム
接続

ベストプラクティス
の共有

OJTによる
人材育成

マルチリージョン化



OJTのゴール

技術・業務・マインドを鍛える

①配属直後 基本の習得

【技術】

- ・ アーキテクチャの理解
- ・ IaCの基本

【業務】

- ・ 作業申請ルールなど

【マインド】

- ・ 安全意識・コスト

②3か月後 自律と自走

【技術】

- ・ 簡単な商用設定変更
- ・ 障害調査入門

【業務】

- ・ タスクの主導

【マインド】

- ・ 課題の自主的な立案

③半年後 チームへの貢献

【技術】

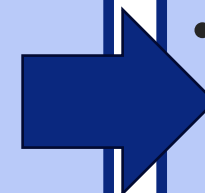
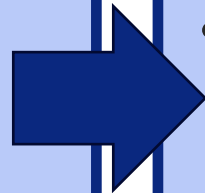
- ・ 小規模設計・構築
- ・ 障害オンコール担当

【業務】

- ・ 他チームとの連携

【マインド】

- ・ 技術知見の発信



OJTタスクの選定

事業貢献&安全に挑戦できる課題をアサイン



OJTタスクの選定

様々なタスクをこなして一人前を目指す

①勉強用AWS環境 コスト削減

- AWS各種サービスの網羅的な知識取得
- 明確な事業貢献
(\$xxx/月 削減！)
- 安全な失敗の場合
(間違えて消しても
ゴメンでOK)

②Squid脆弱性対応

- 事前検証、手順作成/
レビュー、リリース
までの作業サイクル
の理解
- 商用作業時のエンジ
ニアとしての緊張感、
責任感

③障害対応訓練

- アーキテクチャや
RTO/RPOの理解
- 他チーム（アプリ）
連携によるフルス
タックな視野

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築



勉強用AWSアカウント

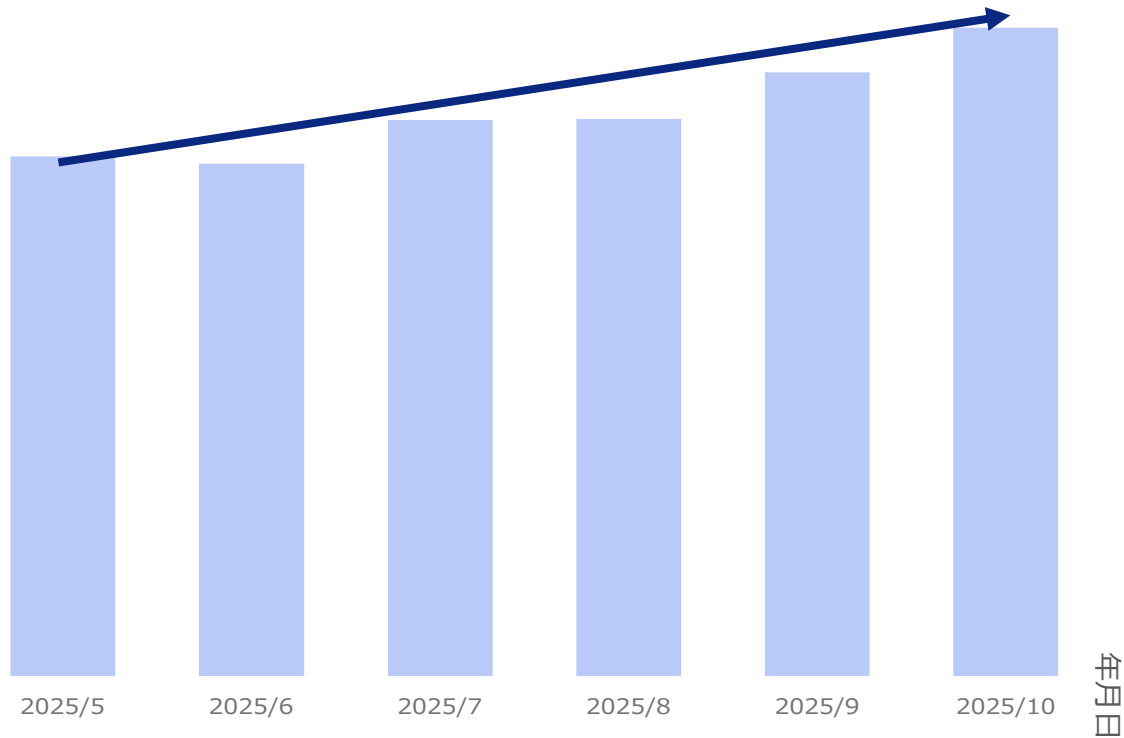
➤ 本部内の開発者が気軽に自由度高くAWSの勉強をできる

- ✓ 業務アイデア創出のためのPoC
- ✓ 資格取得に向けたハンズオン
- ✓ 新サービスを試してみる
- ✓ 社内コンペ用のアプリ制作

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

コストの上昇が続き、リソースも作成後削除されず放置傾向。

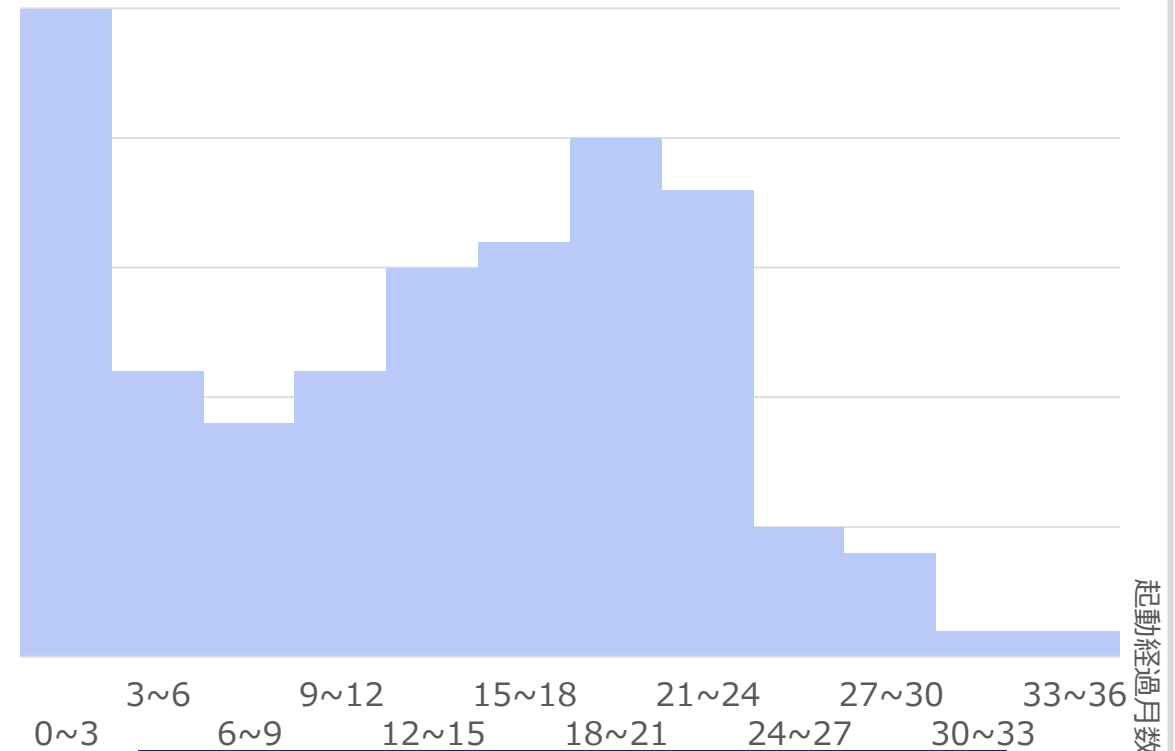
月別コスト推移



コストは上昇傾向が続いている

EC2数

起動中のEC2の起動経過月数

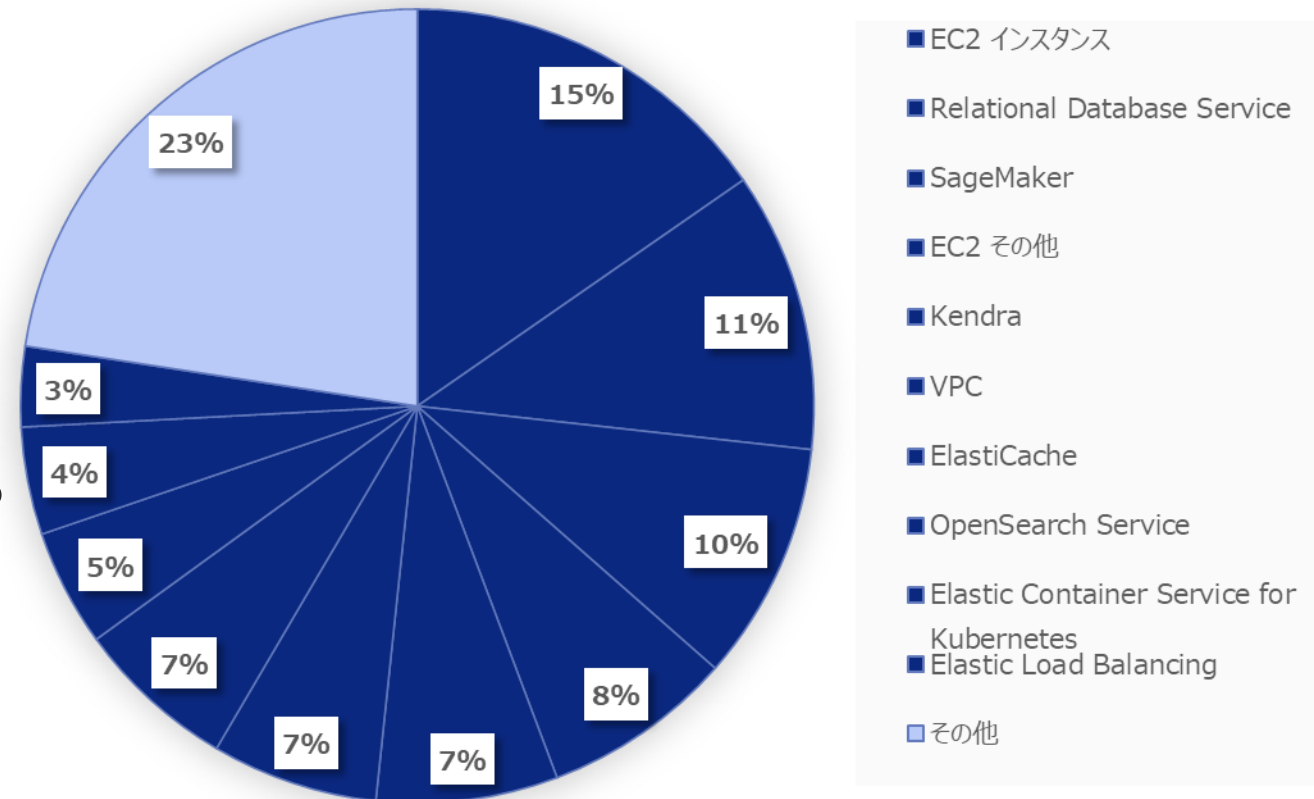


82%は3か月以上放置されている

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

上位**10**サービスで
全体の**77**%のコストが発生。

サービス別のコスト割合



タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

コスト目標

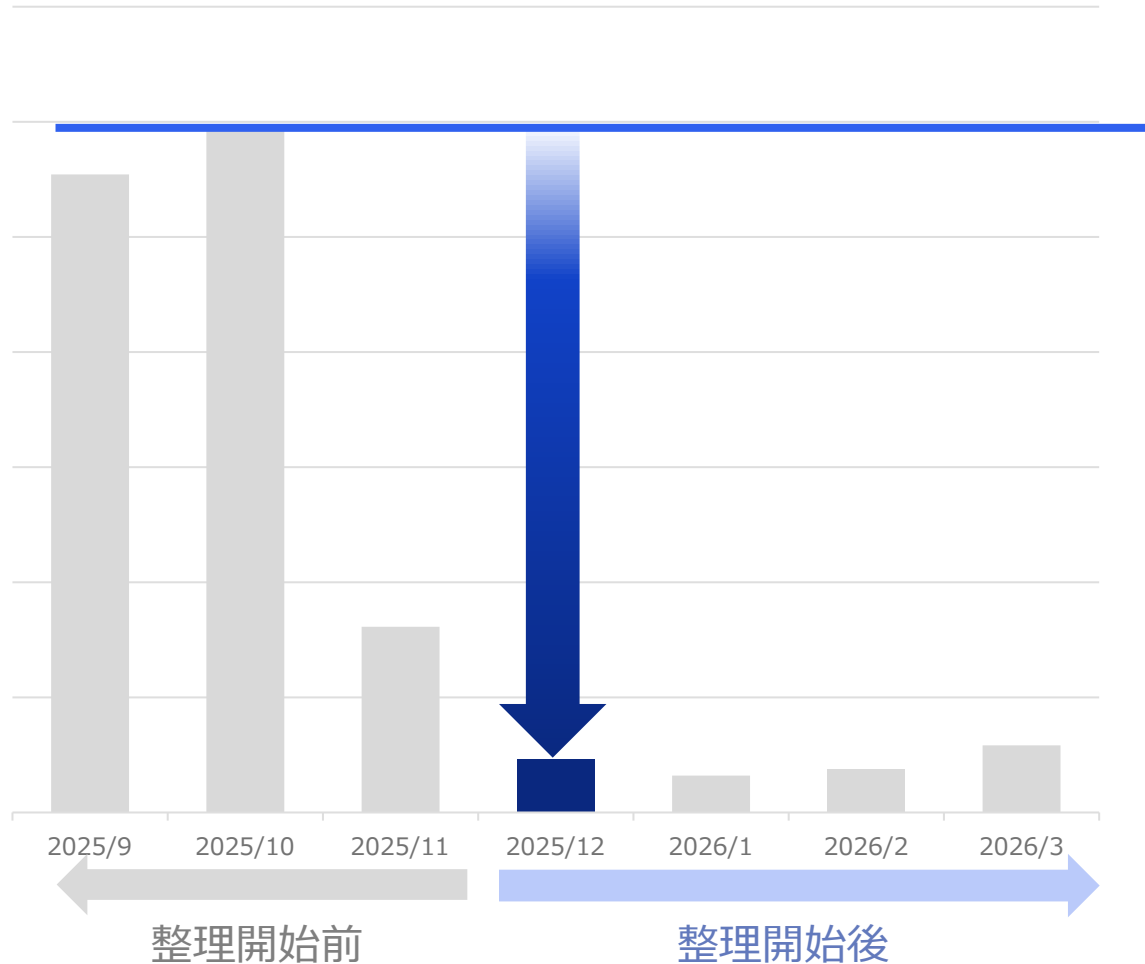
- 手作業で**不要リソースを削除**
- **コスト発生抑制の仕組み化**を導入

better目標

- **ユーザー利用時の面倒がない**ようにする仕組み設計。
- **運用管理負荷が大きくなる**ような仕組みの構築。
- **管理移管に備え、移管が容易**となるような簡易構成。

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

1か月ごとのコスト推移



アンケートをもとに
不要リソースを手作業で削除
92%コスト削減

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築



作成情報を24時間以内に自動でリソースにタグ付け

- リソース作成者
- リソース作成日
- 自動削除までの残り日数の初期値

- 毎日、日数管理タグの値をデクリメント

✓ 削除を延期したい場合、ユーザーはタグの日数を更新

- 日数管理タグの値が0になると、**リソースは自動で削除**

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

自動タグ管理 **resource-autotagger** × 自動削除 **AWS-Nuke**

自動タグ付けに関して参考にした記事[1]

[Amazon Web Services ブログ](#)

AWS Resource Explorer と AWS CloudTrail を使用して、AWS リソースへの一貫したタグ付けを行う

by Yoshiki Yanagi | on 27 3月 2024 | in [AWS Cloud Financial Management](#), [AWS CloudTrail](#), [Management Tools](#) | [Permalink](#) | [Share](#)

リソース自動削除に関して参考にした記事[2]

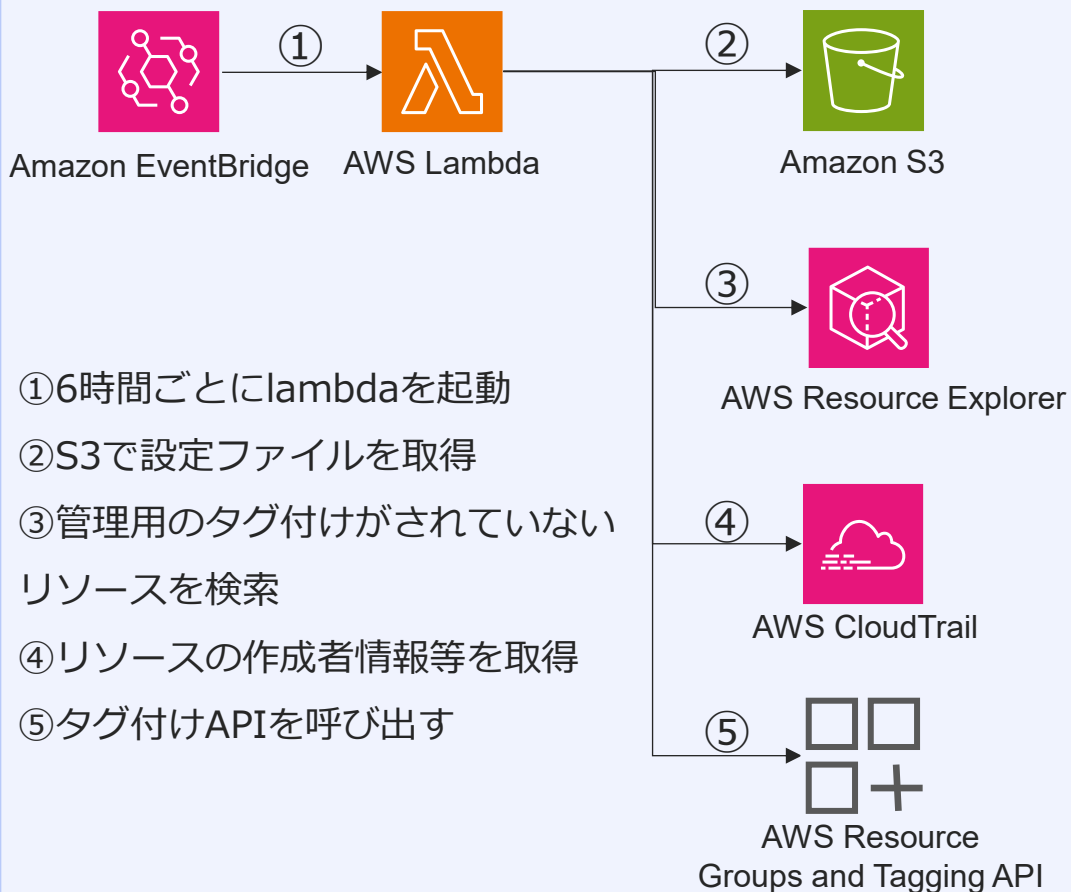
[Amazon Web Services ブログ](#)

東京大学 松尾・岩澤研究室主催の AI エンジニアリング実践講座にて、1400 名を超える受講者に AWS 上でのクラウド開発を体験していただきました【後片づけ編】

by Kei Sasaki and Naoya Funazashi | on 19 11月 2025 | in [Amazon Bedrock](#), [Amazon Machine Learning](#), [AWS IAM Identity Center](#), [AWS Organizations](#), [Billing & Account Management](#), [Developer](#), [General](#), [Higher education](#), [Management & Governance](#), [Public Sector](#), [Serverless](#) | [Permalink](#) | [Share](#)

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

resource-autotagger



付与されるタグ

- **DaysToDeletion**
リソース削除までの残り日数の初期値(90)
- **CreatedBy**
リソース作成者
- **CreatedAt**
リソース作成日
- **AutoDeletionTracking:True**
リソース削除機能の追跡の目印

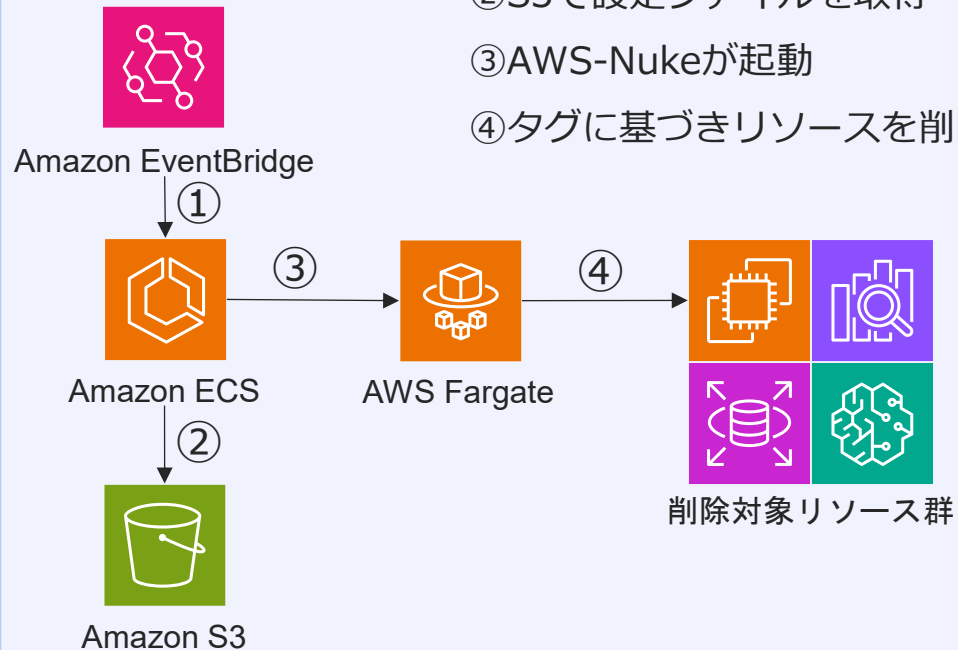
改良ポイント

- **日数管理ロジックを作成**
日数管理の初期値付与・デクリメント機能を作成
- **付随リソースへのタグ付け**
アタッチ情報を参照しタグ付けできるよう変更
- **マルチリージョン対応**

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

AWS-Nuke

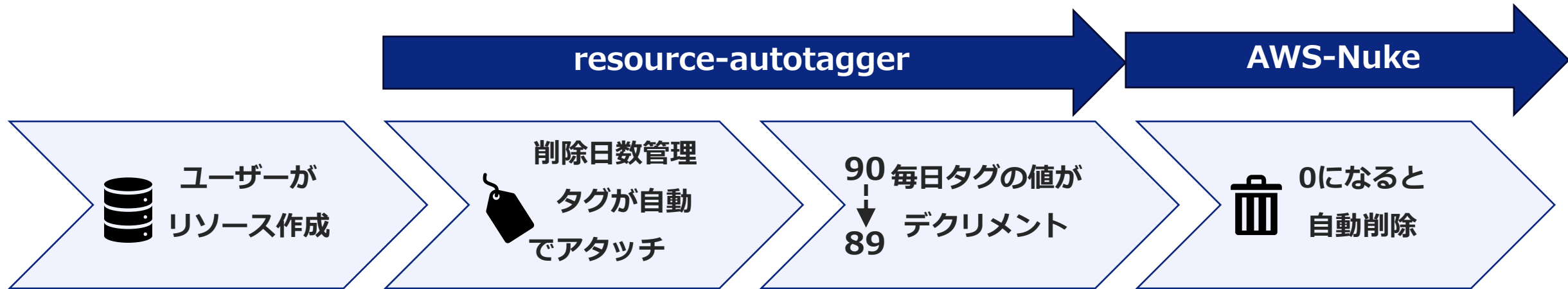
- ①毎日ECSタスクを起動
- ②S3で設定ファイルを取得
- ③AWS-Nukeが起動
- ④タグに基づきリソースを削除



✓ 構成のメリット

- **容易に削除対象リソースを制御可能**
管理者がS3内の設定ファイルにリソースを列挙するだけで削除対象リソースを設定可能
- **AWS内で完結することで管理負荷を軽減**
通常GitHubActionsを用いた構成が多いが、ECS Fargate構成により外部サービス依存を回避、GitHubユーザーの管理を必要としない
- **削除時の予測不能な実行時間に対応**
リソースを大量に削除する場合、制限時間(Lambda15分)が問題となるが、ECS Fargateではタスク終了次第リソースが終了
- **運用コストの削減**
EC2などの常時稼働ではなく、実行時のみFargateを実行。約\$6/月を想定

タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

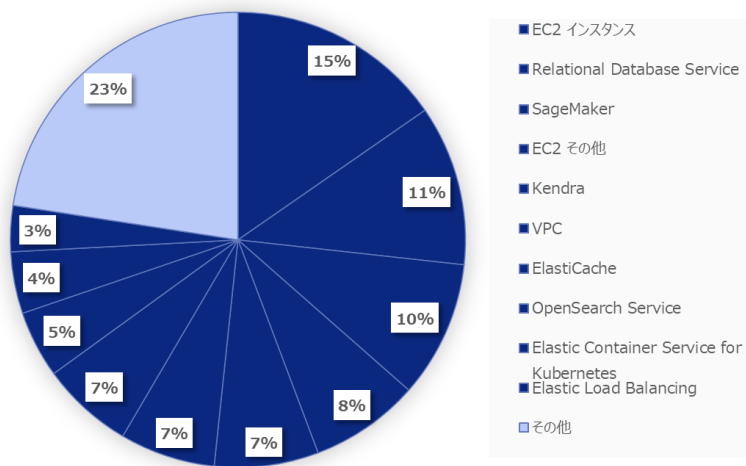


タスク① 勉強用AWSアカウントにおけるコスト削減・自動削除構築

AWSの基礎知識を学びながらスタートダッシュを切れた

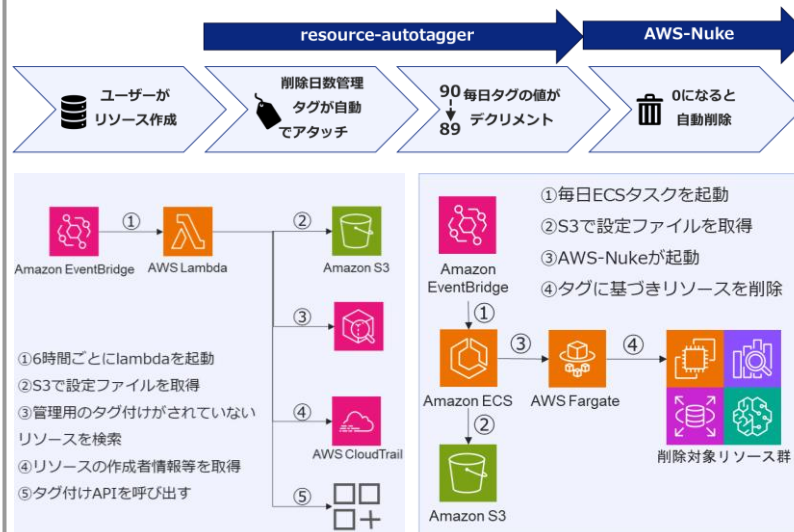
コスト分析

サービス別のコスト割合



✓ タスク設計の重要性

自動化の設計・実装



✓ AWSの基礎知識

登壇発表(社内・JAWS-UG朝会)

自己紹介

氏名: 笹谷 晃斗(ササヤ アキト)

所属: KDDI株式会社 情報システム本部

担当業務: WebサービスのAWS基盤開発

CAREER

2025年4月 KDDI新卒入社

2025年9月～ auお客様向けWebサービスのAWS基盤内製開発・運用を担当

CERTIFICATE

AWS Cloud Practitioner, AWS Solutions Architect, AWS SysOps Administrator

✓ コスト意識の重要性

✓ 登壇発表を恐れない気持ち

タスク② Squid脆弱性対応

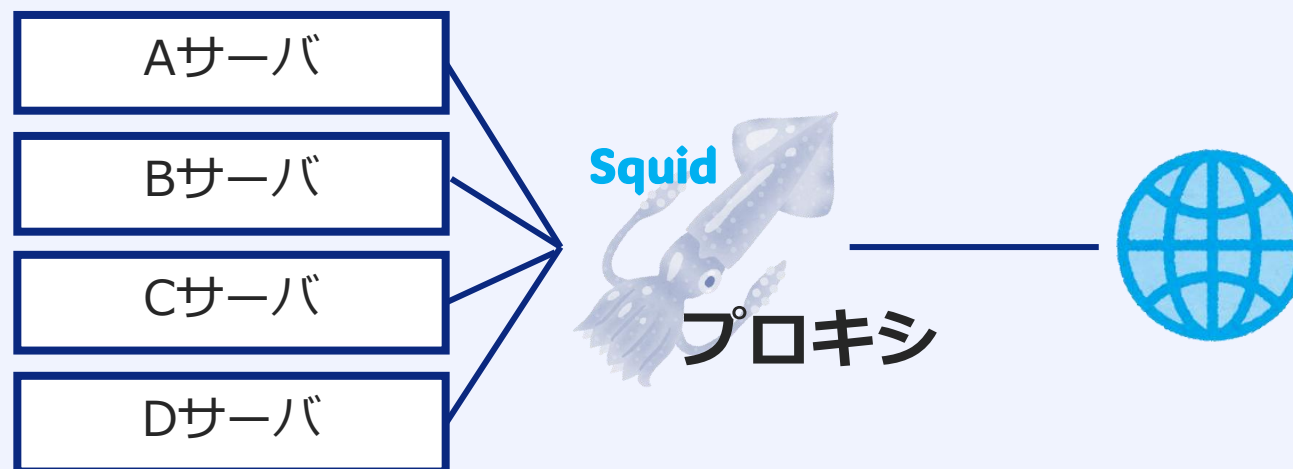
初めての商用作業。調査～商用作業までを主担当で実施

課されたタスク：脆弱性対応



- Squidのエラー画面に認証情報が表示される脆弱性
 - ・ 重要度:クリティカル
 - ・ CVSS:10.0
- エラー画面に認証情報が表示されないように設定を変更

調査してみる



- Squid調査
 - プロキシ用のオープンソースソフトウェア
- 担当システムでの用途
 - インターネット通信をホワイトリスト制限しセキュリティ向上
- 調べたこと
 - 現状の設定内容とどう設定すればよいか
 - ドキュメント上どのサーバと通信しているか

タスク② Squid脆弱性対応

システム保守という仕事とは何かを学んだ



失敗したこと

- 作業影響の調査不足
 - ・ プロキシサーバの通信内容
 - ・ 数秒の通信断の影響
- 頭を使わずに現行踏襲
 - ・ 以前行われた似た作業を根拠に



学んだこと

- 頭の使い方
 - ・ 構造を俯瞰する
 - ・ 網羅性を意識する
 - ・ 演繹法/帰納法
- 「言われたから」は根拠にならない

タスク③ 障害対応訓練

内製開発メンバーが能動的に障害調査・復旧できるようになる

故障中



システムの構成・ツールの理解など障害対応力を鍛えるために障害対応訓練を定期的実施

- 全員がシステム構成、関係者の体制などを理解できている
- 全員がアラート/監視ツールの見方を把握している
- 障害発生時、全員が定められたフローに従い、慌てずに動くことができる

タスク③ 障害対応訓練

インフラチームとアプリチームの連携をテーマにした疑似障害



- 日次バッチで取得した情報をDBへ登録
- インフラ経路上に障害を発生（今回はALBとEKSをつなぐ設定を削除）、日次バッチが失敗しアプリアラートが発報

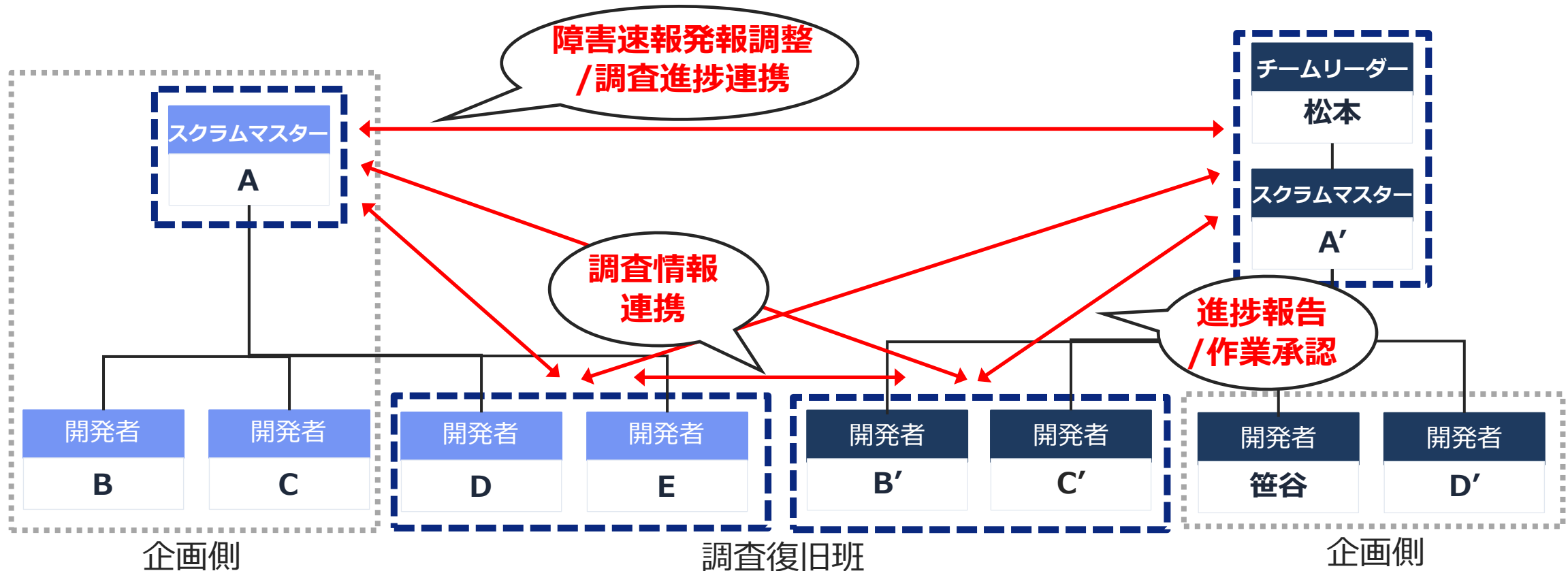
データ連携失敗のアプリアラート発生
→アプリからインフラチームへの連携が必要

タスク③ 障害対応訓練

縦・横の連携を密に実施

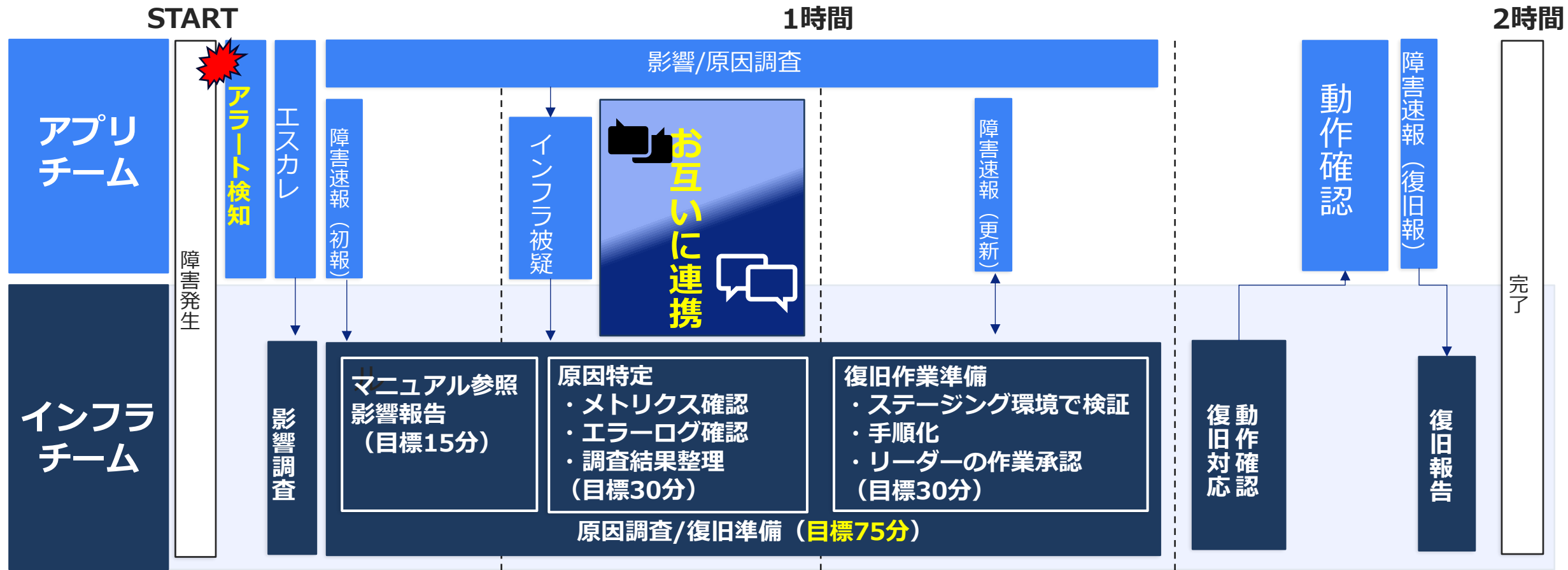
アプリチーム

インフラチーム



タスク③ 障害対応訓練

2時間以内で復旧フロー完了を目標に実施



タスク③ 障害対応訓練

多くの人を巻き込み、推進することの難しさを学んだ



失敗したこと

- 訓練シナリオの作成
 - 訓練の目的と仕掛けの不一致
- 他チームとの調整
 - 訓練者スコープが不定のまま進めてしまった

学んだこと

- 背景・目的・スコープの明確化が重要
 - 人を巻き込む場合は、早めに頭出し

OJTを通じた成長と今後の展望

技術的・ビジネス的な成長が得られた

	OJT前の状態	OJT後の成長
技術面	Squidって何？	- 不要リソース削除システムを自作 - より難しいタスク(Valkey化)に着手 - AWS認定 3資格取得 
業務面	商用作業って家から一人でやっていいの？	- 簡単な商用作業（手順/影響検証・リハーサル・実施承認など）の完遂 - 他チームを巻き込んでの障害訓練の実現
マインド	あまり人前で話すの自信ない	- JAWS-UG朝会登壇 - Cloud Operator Days登壇

まとめ

俺たちのクラウドOJTは、終わらない。

リーダーとして

- 「技術」と「事業貢献」を結びつける課題が、当事者意識に繋がる
- チャレンジングな課題でも、我慢して手を出さず、信じれば想像を超えて成長する



新入社員として

- 泥臭い手作業の先に、自動化を実現。壊してもいいから、まずは手を動かす
- 任せてもらえる「恐怖」が成長の糧に



「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

